

雪の恩恵

厳しい冬、たくさんの雪は
やがて豊かな湧水に

日本海に暖流が流れ込むことで海水の温度が上がり、
上空で雲を発達させます。
その雲は多量の水蒸気を蓄えながらシベリアからの季節風にのり、
日本列島に近づきます。そして関田山脈や三国山脈へぶつかって
上昇し雪雲となり、苗場山麓に多くの雪を降らせます。
毎年平均3mの積雪があり、年間降水量の半分以上が雪によるものです。
たくさんの雪による豊富できれいな水は、私たちの生活の源です。
河岸段丘上に拓かれた広大な田畑に利用され、お米や野菜、お酒を
美味しくします。また、豊富な水は、段丘や溪谷における
高低差を利用し水力発電にも活かされています。

世界に類を見ない
「雪国文化（カルチャー）」は
「大地（ジオ）」に育まれた
「生態（エコ）」によって
形成された。

山に抱かれる秋山郷

今も息づく、日本の原風景

中津川の上流域には「秋山郷」とよばれる山村地域があります。
苗場山や鳥甲山の麓に集落が点在しています。
江戸時代の文人：鈴木牧之はこの秋山郷を旅し、『秋山記行』を描き記しました。
現在も当時と変わらない風景や人の暮らしに出会うことができます。
深い溪谷でありながら、崩落や川のはたらきなどで平らになった場所に集落が営まれ、
その歴史は約8,000年前の縄文時代に遡ります。
自然との密接な関わり合いが今も息づいています。

公認ガイド

Guide

ガイド養成講座、ガイド認定試験を経た
地元ガイドが皆様をお待ちしておりま
す。苗場山麓の雄大な大地の履歴や美し
い風景、その背景には、成り立ちやそこに
息づく動植物、そしてここに暮らしつづ
けてきた人の歴史文化があります。その
すばらしさを地元ガイドが地元の言葉で
伝えたい。さらなる感動や知識を持ち
帰っていただきたい。そんなふうに願っ
ています。



ガイドの依頼は2週間前の予約を原則とします。
ご予約、料金その他詳細につきましては、
下記津南町観光協会へお問合せください。

津南町観光協会 TEL 025-765-5585
https://tsunan.info/

アクセス

Access

🚗 お車の場合

東京方面	関越自動車道	塩沢石打IC	R353-R117経由 35分	津南町	R117 10分	栄村
新潟方面	関越自動車道	越後川口IC	R117経由 60分	津南町	R117 10分	栄村
名古屋方面	中央自動車道	岡谷JCT	長野自動車道	更埴JCT	上信越自動車道	豊田飯山IC
金沢方面	北陸自動車道	上越JCT	上信越自動車道	豊田飯山IC	R117経由 50分	栄村

🚆 JRをご利用の場合

東京方面	上越新幹線	越後湯沢	南越後観光バス 50分	津南	南越後観光バス 15分	森宮野原(栄村)
新潟方面	上越新幹線	長岡	JR上越線	越後川口	JR飯山線	津南
名古屋方面	JR中央本線	長野	JR飯山線	森宮野原(栄村)	JR飯山線	津南
金沢方面	北陸新幹線	飯山	JR飯山線	森宮野原(栄村)	JR飯山線	津南

8つの展望地

Eight Observation place

苗場山麓の大地を体感できる絶景スポットが整備されています。



さかえ倶楽部スキー場展望地



空の展望台



谷の展望台



川の展望台



山の展望台



鳥甲山の展望台



天池



月夜立の見える展望地

雪のふる里

苗場山麓ジオパーク拠点施設

津南町農と縄文の体験実習館なじもん
ニュー・グリーンピア津南
秋山郷総合センターとねんぼ
栄村震災復興祈念館「絆」
栄村歴史文化館こらっせ

観光宿泊案内

津南町観光協会 TEL 025-765-5585
栄村秋山郷観光協会 TEL 0269-87-3333

お問い合わせ

苗場山麓ジオパーク推進室

〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835
農と縄文の体験実習館内
TEL 025-765-1600 URL: http://naeba-geo.org



雪のふる里

苗場山麓ジオパーク

Story

奥信越の川と火山がつくりだした大地

雪に育まれた自然と歴史文化

日本一の大河は、長野から新潟へと県境を越え、千曲川から信濃川と名をかえます。その県境の地が栄村と津南町、苗場山麓ジオパークです。信濃川の支流である中津川下流には、日本有数の河岸段丘が広がっています。一番古い段丘は約40万年前のもの。それから約1万年前に段丘となったものまで9～11段ほどの階段状の地形を一望することができます。

中津川は上流へいくにつれて深い渓谷となっていき、川を挟んで東側には苗場山、西側には鳥甲山がそびえています。かつて2つの火山が流した厚い溶岩は中津川によって侵食され、柱状節理があらわになった絶壁を各所で見ることができます。

このような大地に人が暮らし始めたのは約3万年前の旧石器時代。その後の1万年以上も続く縄文時代には、段丘上にたくさんのムラが営まれました。そして今から約8,000年前には、日本海に対馬暖流が流れ込んだことにより、苗場山麓にたくさんの雪が降るようになります。3m以上も積もる雪は、堅穴住居をすっぽり覆ったことでしょう。しかし、人々はこの地を離れることなく、雪とともに暮らしてきました。降り積もった雪は溶けて大地を潤し、湧水となって森や動物を育てます。私たち人間は、その命の恵みを受けて生きています。

火山の噴火のすごさや川のはたらきを目の前にして、大地（地球）は生きていることを学びましょう。そして、この地で1万年以上も森とともに生きた縄文時代の人々にならない、自然と共生していることを認識しましょう。私たち人間はこれから、大地や自然とどのように付き合い接していくべきか。それを五感を通して体感しながら学ぶ場所、それが苗場山麓ジオパークです。

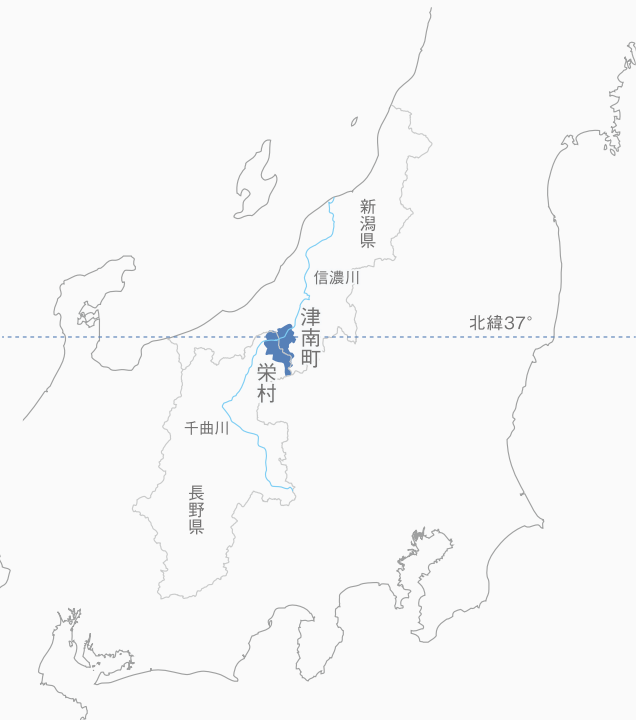


縄文時代から続く、雪国の里

今から約1.5万年前から1万年以上続いた縄文時代。人々は、段丘の上で湧水から流れる河川を基点にムラを営み、狩猟や採集をして暮らしていました。岩石から石器を、粘土から土器を作り、大地とそこに息ついた動植物からたくさんの恵みをうけ、世界に類をみない雪国縄文文化が育まれました。私たちは、縄文時代の人々の哲学と知恵を今に受け継いでいます。



Photo by T.Ogawa



中津川右岸の河岸段丘

河岸段丘は、大地の隆起と氷期と間氷期という地球規模の気候変動からおこる川のはたらきによって形成された階段状の地形です。苗場山麓では、約40万年前から現在までにできた9～11段ほどの段丘を一望することができます。各段丘の形成時期は、降り積もった火山灰の分析によって知ることができ、苗場山麓は過去40万年間の歴史が、河岸段丘という地形地質に残されている貴重なところ です。



石落し〔苗場溶岩流の柱状節理〕

この岩壁は上部が苗場山の溶岩、下部がこの地域の基盤である魚沼層群です。広範囲に広がった苗場溶岩を中津川が約30万年かけて侵食し、見事な柱状節理があらわになりました。春になると雪や水と一緒に柱状節理が崩れ、音を立てて落ちることから「石落し」という名がついたそうです。



龍ヶ窪〔苗場溶岩流からの湧水地〕

苗場山の溶岩は北西へ約13kmも流れ、その端部付近には日本名水百選の龍ヶ窪のほか、いくつもの湧水が点在します。雪や雨は溶岩層にしみ込みますが、下層の魚沼層群は水を通しにくいいため、その境から湧き水となります。龍ヶ窪の湧水量は毎分18～30t、平均水温7～10℃、水質はミネラル含有量19mg/Lの超軟水です。龍神伝説が残る神秘的な佇まいです。



見玉の古型マンモス臼歯化石の産地

見玉の川原では、約115万年前に群馬県榛名山付近の噴火によって飛んできた上越火山灰（SK030）が見られます。この火山灰より上の層から、古型マンモスの臼歯化石が発見されました。古型マンモスは、約120万年前に中国大陸から渡ってきて約70万年前まで生息しており、体の大きさは高さ4mくらいだったと推測されています。



切明温泉の源泉湧出点

切明を流れる中津川の川原には温泉が湧出しています。約56℃（カルシウム・ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉）の温泉が湧き出ており、河床を掘り川の水で調節することで手づくり野天風呂を楽しむことができます。この地は、鈴木牧之の『秋山記行』にも「湯本（ゆもと）」という名で温泉宿などが描かれています。



鳥甲山の筋状地形

鳥甲山は、標高2,037m、約80万年前からの3回の噴火によって形成されました。白倉山（しらくらやま）一剱刀岩（かみそりいわ）一鳥甲山一赤倉山（あくらやま）一布岩山（ぬのいわやま）の連山を「鳥甲火山」と総称し、雪崩による筋状の侵食地形が目立ちます。この地形は、アバランチシュートとも呼ばれ、雪がない季節には削られくぼんだ岩肌が露出しています。



布岩山の柱状節理

長い布を何枚も垂らしたように見えることから布岩山と呼ばれます。布のように見えるのは大きな柱状節理で、その幅は約1.5m、下からの眺めは圧巻です。この布岩山は鳥甲山の火山活動によって形成され、鳥甲山の北東端に位置します。昭和30年代には、旧豊田村（現長野県中野市）の人々が布岩山の岩石を庭石用に買付け切り出していた記録があります。



雑魚川の大滝

雑魚川の上流、奥志賀林道沿いの切明から約6kmのところに位置する滝です。苗場山麓で一番古い地層である結東層の中でも、堅く変質した安山岩質の凝灰角礫岩にかかる滝です。落差約20mの2段になった美しい滝で、近くまで遊歩道が整備されています。



苗場山の高層湿原

苗場山は9合目から山頂まで平らな地形が続いています。そこには約700haの高層湿原が広がり約3,000箇所の池塘が点在しています。この池塘は、約7,000年前に形成されたことが堆積物の調査から判明していて、その背景には多雪化があったと考えられます。短い夏には、高層湿原特有の植物が花を咲かせ、まるで天空の楽園です。



山伏山の風穴と周辺の植生・養蚕卵保管施設跡

山伏山の裾野標高約780m付近には風穴が点在し、真夏でも10℃前後の冷たい空気が流れ出しています。そのため、年によっては7月中旬頃まで雪が残っています。かつてはその冷気を利用した蚕の卵の保管施設があり、現在も石組みが残されています。風穴周辺には、北方系、亜高山性の植物が隔離分布し、過去の寒冷期の残存植物であると言われています。



今井城跡〔新潟県指定史跡〕

信濃川を一望できる段丘面の突端に築かれた中世の山城跡です。1550年頃に城壁が築かれ、戦国時代には上杉氏の番城として戦国時代末まで使用されたことが太平記にも記されています。巨大な堀り切りや畝形阻害が特徴で、本丸・二の丸の跡など当時の面影を残しています。